

問 コロナワクチン接種に 懸念の声が

答 接種は本人の意思に基づき判断を



光風会
恵利 いつ 議員

問 新型コロナウイルス接種による副反応や後遺症、危険性が報告されている。国がコロナワクチン接種による健康被害とした件数は約8000件、うち死亡認定数は約800人である。村内において、これまでに健康被害報告はあるのか。

答 国が2件を健康被害として認定。1件は症状が改善、1件は現在も通院中。

問 10月から導入される自己増殖型mRNAワクチン（レプリコンワクチン）は、国が薬事承認して9カ月経過するが、いまだに開発

国のアメリカをはじめ、世界でこのワクチンを承認している国はない。多くの専門家から安全性の確認が不十分と声が上がっている。これからの定期接種の進め方は。

答 村では9月下旬から対象者に予診票を送付し、予防接種法に基づき実施予定。

問 通知が届くと、住民は接種しなければならぬと考えがち。「希望者」と一目で分かるような工夫が必要。

答 分かりやすく記載したものを送付する。



科学的データを基に医学博士や医師など専門家がワクチン中止を求めている

問 中丸小裏 メガソーラー建設状況は

答 着工前の諸手続きに時間を要する



新政とうかい
みかみ おさむ
三上 修 議員

問 須和間地区で建設予定の太陽光発電所は、5年前の説明会で、同年9月着工と説明されたが、本日まで着工に至っていない。発電所の中央部分は、中丸小学校の通学路となっている村道が通っており、子どもたちの安全確保は最重要課題。工事の状況はいかに。

答 8月に事業者から説明があり、令和6年10月1日から工事を着工、着工後の約1年半後に運転を開始したい旨の新しい工程が示された。一方、事業者が工事着手前に必要となる諸般の手続きが進ん

でない。

問 事業者の大型車両の通行ルートは、県道284号線から中丸コミセン脇の広い道路を通り、工事現場に入ることが最も安全で合理的なルートと考えるが、本村の見解を伺う。

答 中丸コミセン脇の広い道路は農免農道で、課題はあるものの、大型車両の通行に支障はないと考えている。しかし、当該農道も村道と同様に通学路になっていることから、登下校の時間帯の通行には配慮するよう求めている。



発電所建設予定地付近の通学路（中丸小学校裏の村道）